特集

with コロナ と まちづくり

コロナと共に生き、乗り越えていく
市民の皆さんの８つのエピソード

新型コロナウイルスの影響によって私たちの生活が大きく変わる中、これからはコロナと共に生き、乗り越えていくという考え方（with コロナ）が求められています。今回の特集では、私たちの生活を支え、人やまちに元気と活力を与えるような活動をしている企業や団体などの取り組みを紹介します。

まちづくりの専門家に聞きました

一般社団法人
させぼラボ
理事　前田　幸輔さん

ピンチをチャンスに変える佐世保の大きな力

新型コロナウイルスによる危機は
❶売上減少による資金枯渇
❷新様式への対応困難
❸従来と異なる価値観による事業継続困難
の３段階があると考えています。

今、佐世保ではさまざまな団体が支援活動を展開しており、これまでは急場をしのぐ❶への支援活動が主軸でしたが、今後は❷❸へ移る必要があります。

また、団結してこの危機を乗り越えようとする機運も高まりました。アイデンティティーが確立されている佐世保は、特に団結力が強く、大きな武器になると考えます。

SCC（させぼ新型コロナ対策支援協議会）が行っている「佐世保まちの学食」は、「情けは人のためならず」の考え方をインターネットを介し仕組み化したもので、日本初の試みです。困難時の恩義が佐世保への帰属心を高め、それが将来的に社会へ還元されると思っています。

一方で、させぼラボでも多くの関係者と団結し、道路や公園を舞台に安心して楽しめる空間づくりに取り組んでいます。ここで創出された価値が、次の新しい価値を生み出すという連続的な効果を期待しています。

今後は東京一極集中への反省や働き方の変化から、移住希望者が増えると考えています。新たな価値観を生み出し、挑戦できるまちとして佐世保の存在感を高め、移住を考える方に選ばれるまちを目指していきます。

（取材日　６月22日）

人のつながりが生み出す新たなアイデア

佐世保の明るい未来のために

西海みずき信用組合 地域振興室 副室長　西信　好真さん

「さきめし」「タク配サービス」「まちの学食」を実施

「困難が生じた時に地域のみんなで知恵を出し、団結し合える体制をつくりたい」と話す西信好真（にしのぶよしまさ）さん。愛媛県出身で東京で就職後「相手の顔が見える距離で仕事をしたい」と地方に転職してまちづくりに従事し、１年前に本市へ移住しました。

新型コロナウイルスの影響で飲食店が苦しむ状況を目の当たりにした西信さんは、まちのために何か役に立ちたいとの思いで、以前から交流があったスマホアプリを運営する企業に企画を提案。食事券を前払いで購入し、飲食店を応援する「さきめし」を３月上旬に開始し、全国に広まっています。

４月中旬には飲食店同様、タクシー会社も外出自粛で利用者減少に苦しんでいることを知り、タクシーで飲食店の料理を届ける「させぼタク配サービス」を開始。利用者にとっても、新しいお店を開拓する良いきっかけになっています。

さらに５月には、地元企業に声を掛け、企業の垣根を超えて SCC（させぼ新型コロナ対策支援協議会）を結成し、学生たちが学業に集中できるように寄付を募り、食事を無料で提供する「佐世保まちの学食」を開始しました。利用した学生からは「アルバイトができずに困っていた。本当にありがたい」とお礼の言葉が寄せられ、食事を提供した飲食店からも「学生のために何か力になりたかった。元気に食事する姿を見られてうれしい」との声が上がっているそうです。

これらの取り組みを通し、「何か心に思うことがあれば、ちゃんと声に出し、行動することが大事」と考えるようになった西信さん。「自分ができなくても言葉にして伝えることで、自然と人が集まり、大きな動きになる」と実感したそうです。

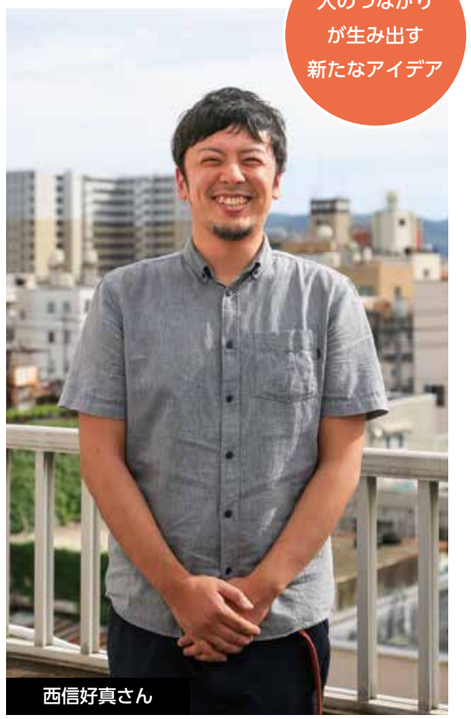
しっかりとスクラムを組んで ピンチを乗り越えましょう

「佐世保は良いところが多く大好きなまち」と今ではすっかり佐世保ファンの西信さん。佐世保に移住し、体感した「多様性を受け入れる風土」を大切な財産だと思ったそうです。

「コロナ禍でもみんなが手を取り合い、しっかりとスクラムを組む体制ができれば、これから先のどんなピンチも乗り越えられ、新しい動きが生まれるチャンスにもつながるのでは」と話す西信さん。「この困難を地域の人と一緒に乗り越え、未来の子どもたちに胸を張れるような、明るく元気なまちにしたい」と笑顔で意気込みを話してくれました。

（取材日　６月23日）

「佐世保まちの学食」を利用して大潟町の飲食店「Haru」で食事を楽しむ地元の大学生と SCC の皆さん（７月３日撮影）



西信好真さん

※「まちの学食」では、皆さんからの支援を基に学生を応援しています。
詳しくは右の画像からホームページをご覧ください。

まちなかに「元気」と「にぎわい」を

SASEBOまち元気協議会　会長　川尻　章稔さん

人が出会い、交流する「商店街」

「まちなかに『にぎわい』を取り戻したい」と話すのはSASEBOまち元気協議会で会長を務める川尻章稔（あきとし）さん。まちなかの活性化を目的として平成25年に設立された同協議会は、三ヶ町・京町・戸尾商店街、させぼ五番街、えきマチ一丁目、商工会議所、市の8団体で構成され、各店舗と商店街、大型商業施設をつなぐ役割を担っています。

いつもは多くの人でにぎわうまちなかも新型コロナウイルスの影響によって客足は減少。休業や時短営業する店が相次ぎ、お客さんを呼べない状況に葛藤する日々が続きます。

また、四ヶ町商店街組合の理事長も務める川尻さん。先が見えず、不安の声が上がる商店街の士気を高め、お客さんが少しでも安心できるようにと4月からアーケードの消毒を開始。「コロナには負けん」と強い意思で取り組む姿に、通行人から多くの激励の言葉が掛けられたそうです。

6月に入り、徐々に人通りが戻り始めた商店街。久しぶりにお客さんと顔を合わせ、会話を楽しむ姿に「まちなかに笑顔が目立つようになってきた」と川尻さん。「商店街は今や買い物するだけの場所ではなく、人が出会い交流する場所」と話します。

7月からは「させぼ振興券」の販売も始まり、「消費マインドを上げるチャンス。ぜひ購入して、まちなかで買い物をしてほしい」と期待を込めます。

夜直しパーティなどを若者と共に

「新しい生活様式と共に、まちなかも変化しながら共に過ごしていく。お客さんの安全を第一に、新しいことを考えないといけない」と川尻さん。

すでにまちなかでは新しい動きが出始め、7月には夜店公園通り周辺の道路や公園を活用し、屋台などでテイクアウトする「夜直しパーティ」が開催されます。こうした動きを見て川尻さんは「佐世保は新しいことに挑戦しやすいまち。コロナ禍で地元を見直す気持ちが芽生えてきている」と話します。

また、佐世保は「まちをよくしたい」と強い思いを持つ学生が多いそうで、「若い力はとても心強い。彼らの『やりたい』という気持ちをサポートしたい」とさまざまな活動を通して若手の人材育成にも力を入れていくそうです。

川尻さんは「これからも各店舗や商店街、大型商業施設と力を合わせて、まちを元気にしていきたい」と強い意気込みを話してくれました。

（取材日　7月1日）

8団体が団結
佐世保のまちなか
活性化

川尻章稔さん

アーケードを消毒する皆さん

笑顔の買い物客と店員さん

南新太郎さん

発想を転換
地域の課題を
イベントに

「相浦ドライブスルー」で弁当を販売する様子

笑顔で弁当を受け取るお客さん

相浦川の草を刈る様子

地域の課題を地域独自の魅力として引き立てる

薬味―Yakumi―　代表　南　新太郎さん

地域を「守る」から「面白く」に

「まちをもっと面白く、楽しめる場所にしたい」と話すのは、相浦地区で地域団体「薬味（やくみ）」の代表を務める南新太郎さん。東京でデザイナーの経験を積み、7年前にUターン。現在は地域の皆さんと共に地元のために活動しています。

地域を料理に例え、「料理はそのままに、味を引き立てる『薬味』のような存在になりたい」。そんな思いで名付けられた地域団体「薬味」は、地域の課題をその地域ならではの魅力と捉え、新しい考え方でその魅力を引き立てます。

緊急事態宣言によって市内の飲食店は休業が相次ぎ、「このままではまちの灯が消えてしまう」と危機感を感じた南さん。外出自粛の中、何とか支援できないかと地元商工振興会・青年会に協力を仰ぎ、地元飲食店の弁当をドライブスルー方式で販売する「相浦ドライブスルー」を5月に開催。飲食店の協力の下、3日間で約千食分の弁当を販売しました。

最近では、これまでボランティア活動だった相浦川の草刈りや樹木の伐採をイベント化し、伐採した樹木でまきをつくり、地域に新たな収益を生むことができないかと考えているそうです。

「デザイナーと薬味の活動は似ている」と話す南さん。「課題を発見し、解決策を模索して表現する。お客さんが人から地域になっただけで、自分のやることは変わらない」と続けます。

「愛宕市」など多くの伝統行事が残る相浦。南さんは「昔ながらの地域でありふるさと。だからこそ新しい考え方や方法で面白くしたいし、楽しめる場所にしたい」と意気込みを話します。

身近なコミュニティは佐世保の強み

コロナ禍で新たな課題に直面する中、「地方は今がチャンス」と語る南さん。「これまでのやり方が通用しないからこそ、新しいことに挑戦しやすい雰囲気になっている」と現状を分析し、「今まで続けてきたものをしっかりと評価した上で、地方に求められる価値を再認識し、新しい変化を取り入れていくことが必要」と話します。

また、個々の力は小さくても、みんなで知恵を出し合えば大きな力になることを薬味の活動を通して実感し、「すぐに手を取り合えるコミュニティは佐世保の強み」とも話します。

最後に南さんは「このピンチに向き合い、考え、挑戦することができれば、どこにも負けないまちになる。これから佐世保が盛り上がる姿を想像すると夢が膨らむ」と笑顔で話してくれました。

（取材日　6月27日）

もっと身近に！
花の魅力を伝える
プロジェクト

心と体が元気に　毎日の暮らしに「花」を

ＪＡながさき西海　西海の花連絡協議会　会長　沖田　憲一さん

生産者と花屋が垣根を越えて新たな消費を生み出すプロジェクト

「各家庭で花を見ながら和む時間を過ごしてほしい」と話すのは、ＪＡながさき西海・西海の花連絡協議会で会長を務める沖田憲一さん。花が大好きな沖田さんはアスチルベの生産者として、日頃から愛情を込めて栽培しています。

冬の花の出荷が最盛期を迎える2月から4月。新型コロナウイルスの影響で各種イベントの中止が相次ぎ、花きの需要や価格は一気に低迷。売り上げも前年度の約半分に落ち込むなど花き団体は大きな影響を受けました。

特に、緊急事態宣言後は、花の注文がほとんどなくなり、生産者にとっては生産規模の縮小を余儀なくされる状況でした。

これまでに経験したことのない危機に直面した沖田さん。「花は皆さんに元気を与える。行き場を失った花たちを何とか消費につなげたい」と花き業界の関係団体に協力を呼び掛け、その熱意が伝わりすぐに承諾が得られ、生産者と花屋の垣根を越えた、新たな消費を生み出すための「花いっぱい応援プロジェクト」が立ち上がりました。

「家庭や職場で花を飾る機会が減っている今、改めて花の魅力を知ってほしい」と沖田さん。本市や近隣の自治体などの職員に積極的に花の購入を呼び掛け、これまでに2回販売されました。

カーネーションやトルコギキョウなど県北地域で栽培される花々できれいに彩られた花束が届けられ、沖田さんは「お客さんからは『花を見て元気が出た。心が癒された』と喜びの声をいただいた。花束を作った花屋からも『新しいお客さんからいろんな声を聞くことができて良い刺激になった。お客さんに直接気持ちを伝えられた』などの声が寄せられ、反響は大きかった」と振り返ります。

気軽に花を購入できる雰囲気づくりを

コロナ禍で結束が強まった佐世保の花き業界。今回のプロジェクトを通して沖田さんは「何か良い事があったり、楽しかったりするときに、お客さんがもっと気軽に花を購入できるようになればいい」と期待を寄せます。

以前から祝い事や催しなどでしか花が売れにくい現実に危機感を感じていた沖田さんは、「花は飾って美しさを感じたり、ゆとりや癒やしを与えてくれたりするもの。これからも皆さんに花の魅力を伝え、毎日の生活の中に『花』のある暮らしを目指していきたい」と今後の意気込みを話してくれました。

（取材日　6月30日）

花を出荷する生産者

アレンジをつくるフローリストの店員さん

市役所に花を届けるフローリストの店員さん

沖田憲一さん

障がい者
就労支援で
手作りマスクを
新たな仕事に

一人一人の能力を生かし、やりがいのある仕事を

株式会社フォーオールプロダクト　ブランディングマネージャー　坂井　佳代さん

坂井佳代さん

マスクを縫製する様子

デザインを考えるスタッフ

海きららで販売中のマスク

楽しみながら働いてほしい

「人生を大切にする働き方を応援したい」と話すのは、株式会社フォーオールプロダクトでブランディングマネージャーを務める坂井佳代さん。障がい者の就労継続支援（B型）と就労移行支援を行う同社では、働くことに生きがいを感じられる働き方を実現し、より良い社会とのつながり方を生み出すことを目指し、就労支援を行っています。

デザインやプリント、縫製、包装などを全て自分たちで行い、商品化して販売している同社。障がいのある人を一緒に働くスタッフとして迎え入れ、適材適所で活躍しています。

「ネガティブなイメージがついている障がいだが、才能に秀でた人が多く、個人の能力に合った仕事に就ければ、貴重な戦力になる」と坂井さん。「本人の得意なことややりたいことを尊重しながら個々の能力を磨き、その人の財産になるようにしたい」と話します。

新型コロナウイルスの影響で商品の納品先が休業となり、同社の仕事も止まってしまい、「自宅や狭い場所でも気軽に作業ができ、工賃につながることができないか」と考えた坂井さんは、当時入手が難しかったマスク作りを提案し、製作に取り掛かりました。

「コロナ禍でも楽しみながら働いてほしい」。坂井さんはデザインのスタッフにいくつか柄を考えてもらい、みんなに選んでもらうことで本人たちのやる気や仕事への喜びにつなげたそうです。

また、「どんな形がいいか、どうしたらみんなが作りやすいかをスタッフ同士で考え、積極的に意見交換ができた」と坂井さん。各スタッフの良い部分や必要としている部分を改めて確認できたそうで、「今後はスタッフの思いを実現できるように商品の企画を変えながら、社会の変化に対応していきたい」と決意を固めます。

障がいのある人が働くチャンス

「コロナ禍でより働きやすく、多様になった」と話す坂井さん。スタッフの安全を第一に考える中で、在宅勤務やリモートワークなどの新しい働き方ができるようになり、「能力があっても外で働けなかった人が自宅で働けるようになった。障がいのある人がこれから働きやすくなるチャンス」と話します。

「多様化するということは、一つの事に特化すること」と考える坂井さん。「個々の強みを伸ばし、これから来る新しい社会で活躍できるように応援したい」と意気込みを話してくれました。

（取材日　7月2日）

生徒たちが「誇り」を持って卒業できるように

佐世保東翔高校 吹奏楽部 顧問 中村 明夫さん

奏者から指導者へ
「感謝の気持ち」を指導に込めて

「『今だからこそできた』という誇りを持って卒業させたい」と話すのは、佐世保東翔高校で吹奏楽部の顧問を務める中村明夫さん。中学時代、やんちゃで周りから厄介者扱いされる中、吹奏楽と出会い、初めて「自分の居場所」を見つけたと話す中村さん。その後は音楽の道へ進み、プロのテューバ奏者として活動していましたが、自身の支えとなった吹奏楽に恩返しをするため教員となり、平成20年に東翔高校へ赴任。作り手、聴き手、仲間への思いやりのある演奏を生徒たちに指導しています。

「演奏できるのは生徒と保護者のおかげ」と話す中村さん。感謝の気持ちを込め、生徒たちがたくさん輝ける瞬間をつくれるようにと指導に力を入れ、吹奏楽の新たな可能性に挑戦しています。

今だからこそできることを全力で

新型コロナウイルスの影響で3月以降全ての演奏会が中止となり、「生徒たちは発表の場を失い、喜ぶお客さんの顔も見られずやるせなかった」と話す中村さん。臨時休業期間中、生徒たちには「自分が感染していると思って行動し、やりたいことよりやるべきことを」と周囲への配慮を呼び掛けるも、生徒のことが心配で休業明けには誰よりも早く登校し、校門で出迎えたそうです。また、再開した部活動の初日には「生徒たちが楽しそうに演奏する姿を見て自然と涙が流れ、それまでの不安が喜びに変わった」と当時を振り返ります。

先行きが見えない中、「誰も悔いが残らないように全力で挑みたい」と生徒たちに卒業までに身に付けることを前もって伝え、生徒たちが自分で目標に向かい努力し、学べるように実践的な指導を行うようになったそうです。

また、自身がパーソナリティーを務めるFMさせぼのラジオ番組（毎月第2・4月曜21時）で引退する生徒たちの演奏を披露しようと呼び掛けたところ、市内外の学校から応募があり、現在も放送しています。この他にも、海上自衛隊佐世保音楽隊による演奏指導を受けるなど、「今だからこそできる取り組みがこれからもいろんなところで広がってほしい」と期待を寄せます。

中村さんは「目の前の困難を乗り越えるため、心に寄り添い、知恵を絞り、決して諦めずに取り組んでいく。私たちの背中を見て育った生徒たちが大人になった時、誰かに頼られるような人間になってほしい」と笑顔で今後の意気込みを話してくれました。

（取材日 6月16日）

FMさせぼはこちらから

※スマホ(アプリ)でも聞くことができます。

ラジオの収録風景

海上自衛隊佐世保音楽隊の指導を受ける高校生

ラジオやインターネットで生徒を応援

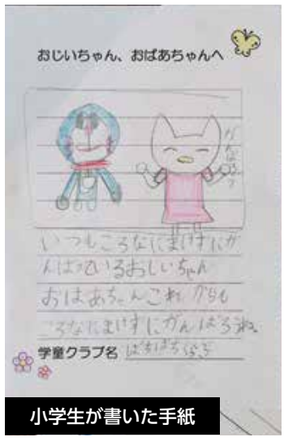
中村明夫さん

地域の児童と高齢者のつながりづくり

菊田早苗さん

地域の高齢者に手紙を書く小学生

小学生からの手紙を受け取る様子



小学生が書いた手紙

コロナ禍で生まれた新しい「地域の絆」

中部地域包括支援センター センター長 菊田 早苗さん

「支え合いのまちづくり」を目指して

「こんな時こそ地域で支え合いを」と話すのは、中部地域包括支援センターでセンター長を務める菊田早苗さん。高齢者のための総合相談窓口として、介護予防や日常生活の困り事などの相談を受け付け、関係機関と連携しながら必要なサポートを行っています。

以前から地域の交流が盛んな中部地区。平成29年度から生活支援コーディネーターが加わり、見守り活動や買い物サポート、憩いの場（サロン）づくりなど、地域で支え合う仕組みづくりを積極的に進めてきました。

子どもの手紙で高齢者を元気に
今後も地域とのつながりを

感染症拡大とともに外出自粛の動きが広まり、「高齢者が家に閉じこもりがちになり、体力が落ちるのでは」と不安に感じた菊田さん。「これまで地域の皆さんと意欲的に取り組んできた活動ができなくなり、とてももどかしい気持ちになった」と当時の心境を語ります。

「外にも出られず、家で寂しい思いをしている方の気持ちを明るくしたい」。会えなくても支え合える方法を求めて関係者とアイデアを出し合い、地域の子どもたちに手紙を書いてもらって、訪問の際に届けることになりました。

すぐに学童クラブ「ぽちぽちくらぶ」（小佐世保町）に相談し、「コロナ禍で子どもたちもきっと誰かを応援したい気持ちがある。その思いが地域のためになるのなら」と快く承諾していただき、子どもたちも思い思いに手紙を書いたそうです。

また、手紙を受け取った高齢者の方からは「毎日元気に過ごすことで子どもたちの思いに応えたい。会ってお礼を伝えたい」との声が寄せられたそうです。

今回の取り組みで菊田さんは、「新しい地域の絆が生まれ、支え合いの輪が広がった」と話し、「日頃から住民同士で支え合う体制ができていたので、すぐにアイデアを実現できた。厳しい状況の中、地域のためにという住民の皆さんの意識が高まっている」とこれまでの活動の成果を実感したそうです。

「これからも困ったときにすぐ相談できる関係を築いておくことが大切」と意気込む菊田さん。「昔から『向こう三軒両隣』という言葉があるように、身近な人とのつながりを持つだけで地域社会とも関わりを持てる。生活様式は変わっても、あいさつや声掛けなどは続けてほしい」と改めて地域とのつながりの大切さを笑顔で話してくれました。

（取材日 6月23日）

地域を支える足として走り続けるために

西肥自動車株式会社　安全管理課　課長　浦　勇藏さん

地域と安全を守る感染症予防

強い使命感を胸に

「地域の皆さんと共に地域を支え、安全で快適なバスの運行を継続することが私たちの使命」と話すのは、西肥自動車株式会社・安全管理課で課長を務める浦勇藏（ゆうぞう）さん。1日平均約4万2千人（約1680便）のお客さまを乗せて市内を走る西肥バスでは、安全を第一に市民の皆さんの生活を支えています。

新型コロナウイルスの影響で大きな打撃を受けた西肥バス。乗合バスの収入は半減し、貸し切りバスの需要は全てなくなりました。高速バスは運行を継続できず、減便や運休を余儀なくされました。

緊急事態宣言によって休業が相次ぎ、利用者が減る中、「生活交通として路線バスは何としてでも維持したかった」と当時を思い返す浦さん。コロナ禍でこれまで当たり前だった生活が大きく変わり、厳しい局面もあったそうですが、「お客さまからの『利用者が少なくても走ってくれてありがとう』という感謝の声が励みになった」と話します。

西肥バスでは、お客さまが安全にバスを利用できるように、感染症流行の兆しが見え始めた2月から車内の消毒を始め、換気や座席の使用制限、運転席のビニールシートの設置など、さまざまな感染症予防対策に努めています。

また、5月にはコロナ禍で疲れたお客さまの心をほぐし、前向きになれるようにと、疫病退散のご利益があるといわれる「アマビエ様」のステッカーを乗車口付近に貼るなどの取り組みも行っています。

利用する皆さんの協力と共に これからも安全で快適な運行を

「安全で快適なバスを運行するためには、利用する皆さんの協力もお願いしたい」と話す浦さん。「私たちだけでなく、お客さま一人一人にもしっかりと感染症予防に努めてほしい」と予防の大切さを呼び掛け、「バスに乗る際には必ずマスクを着用し、せきエチケットを徹底してほしい」と協力を求めます。

また、「大きな声での会話を控えるなど、他のお客さまを思いやる行動が感染症予防にもつながる」とも話します。

地域を支える足として、日々決まった時間に決まったルートを走り続ける西肥バス。ことし創立100周年の節目を迎え、浦さんは「佐世保を代表するバスとして、皆さんにはこれからもたくさん利用してほしい」と笑顔で話してくれました。

（取材日　6月29日）

営業所でバス車内を消毒する運転士

飛沫感染を防ぐ運転席

浦勇藏さん

特集に関する問い合わせ　新型コロナウイルス感染症特別対策室、商工労働課　☎24-1111

新型コロナウイルス感染症関連 **緊急経済対策** など

給付金の手続きはお早めに

次の給付金の申請期限が近づいていますので、早めの手続きをお願いします。

※電話番号の掛け間違いがないようにご注意ください。

※詳しくは市HPをご覧になるか、お尋ねください。

特別定額給付金

一人当たり10万円が支給される特別定額給付金の支給を希望し、手続きが済んでいない人は、お手元に送付している申請書に必要事項を記入し、市特別定額給付金事務局に提出してください。

〆　切　　8月31日（月）（当日消印有効）

問特別定額給付金コールセンター　☎050-3085-7653

子育て世帯への臨時特別給付金

公務員で手続きが済んでいない人は、勤務先から配付された申請書に必要事項を記入し、子育て特別給付金事務局に提出してください。

〆　切　　9月30日（水）（必着）

※公務員以外の人には6月30日に支給しています。

問子育て給付金コールセンター　☎050-3181-7434

飲食店応援クーポンは8月31日（月）まで

食べて飲んでお店でもらえるお得な「飲食店応援クーポン」の有効期限は8月31日（月）までです。目当てのお店を探して、市内の飲食店をお得においしく応援しましょう。

※登録店舗や各店舗で定めるクーポン券の配付方法など詳しくは市HPをご覧になるか、お尋ねください。

問緊急経済対策給付金事務局クーポン係　☎24-1111

高収益作物次期作支援交付金を支給

新型コロナウイルス感染症によって売り上げが減少するなどの影響を受けた高収益作物（野菜・花き・果樹・茶）について、次期作に向けて前向きに取り組む生産者を支援しています。

対　象　本年2～4月の間に高収益作物を出荷した実績があるか、出荷ができなかった生産者

※対象となる取り組みなど詳しくはお尋ねください。

問農業畜産課　☎24-1111

ひとり親世帯臨時特別給付金を支給

新型コロナウイルス感染症の影響によって子育てと仕事を1人で担うひとり親世帯の生活に特に大きな困難が生じていることから、児童扶養手当受給世帯等へ子育て負担の増加や収入の減少に対する支援を行います。

対　象　次のいずれかの要件を満たす人

❶基本給付

①本年6月分の児童扶養手当の支給を受けている人

②公的年金給付等を受けていて児童扶養手当の支給を受けていない人（所得制限あり）

③新型コロナウイルス感染症の影響によって直近の収入が児童扶養手当の対象となる水準に下がった人

❷追加給付

上記①②に該当し、新型コロナウイルス感染症の影響によって収入が大きく減少していると申し出があった人

給付額　❶1世帯当たり5万円、第2子以降1人につき3万円

❷1世帯当たり5万円

手続き　❶の②③と❷の人は申請が必要です

※詳しくは市HPをご覧になるか、お尋ねください。

問ひとり親世帯給付金コールセンター　☎050-3161-6016

皆さまから多くのご支援をいただきました

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、多くの物資を支援していただき、厚くお礼を申し上げます。

ご支援いただいた皆さまに感謝の意を込め、公表に承諾された方のお名前と支援内容を紹介します。

- （一社）佐世保青年会議所（マスク）
- 佐世保工業高等専門学校（せっけん）
- 佐世保商工会議所青年部（マスク）
- 佐世保市老人クラブ連合会（マスク）
- 台北駐大阪経済文化弁事処福岡分処（防護服など）
- 明賀　喜利（連鶴）
- （公財）風に立つライオン基金（消毒用アルコールなど）
- （特非）ナガサキピーススフィア貝の火運動（消毒用アルコールなど）

※6月30日時点。敬称略、順不同。

問新型コロナウイルス感染症特別対策室　☎24-1111